



こんなとき、どうする？ どうみる？ 性にまつわるケアと支援者への影響 ～トラウマインフォームドケアの観点から～

日時・会場

2020年3月8日(日)
12:30~16:45
大阪府立大学 I-site なんば
「なんば」「大国町」「恵比寿町」駅



定員・参加費

定員 40名(先着順)
参加費 4,000円(資料代含む)

申し込み方法

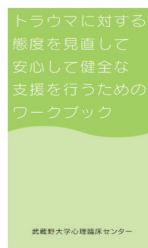
(1)お名前、(2)ご所属、(3)連絡先(メールアドレスおよび電話番号)をkansaishy@gmail.comまでメールでお送りください。事務局・吉田より、銀行振り込み情報などをお送りします。入金確認後、参加登録完了となります。

児童生徒間の性的接触… 遊び？あるいは恋愛？それとも性暴力！？
のぞみや盗撮、つきまとい…「やめなさい」と指導したけれど…
教員のセクハラ行為…「同意の上」！？生徒も嫌がっていないみたい
性被害への相談対応…「話を聴くとつらくなる」私は支援に向いてない？

学校や地域で起こる性被害や性問題行動は、まれなできごとではありません。ところが、こうした性的なトラブルへの対処をする際に生じるのが、**スタッフ間の認識のズレ**。問題を懸念する人と「おおごとにすべきではない」と考える人の間で、**判断がブレて、初期対応が遅れがち**です。また、支援を開始しても、**何から始めればいいのか？**と支援プランの策定に悩むことがあります。

本セミナーでは、支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、**様々な性の問題をどう捉えるか？**性的な発達段階をふまえて、遊びと暴力の違いを見極める視点をみなさんと共有します。さらに、**性に関する支援を行うことに伴う自分自身や組織への影響**を理解します。

支援対象者や支援者自身、そして組織へのトラウマの影響を理解する**トラウマインフォームドケア (Trauma Informed Care)**の観点から、性にまつわるケアについて、実践的に学びます。様々な立場の方(教職員、スクール・ソーシャルワーカー、スクール・カウンセラーなど)の参加をお待ちしています。



使用する教材『トラウマに対する態度を見直して安心して健全な支援を行うためのワークブック』(武蔵野大学心理臨床センター作成)

講師プロフィール

- 野坂祐子** 大阪大学大学院人間科学研究科・准教授、臨床心理士/公認心理師。学校や児童福祉領域での性的問題に関する臨床・研究を行う。児童相談所や刑務所での治療教育に関するスーパーバイザー。主著『マイステップ：性被害を受けた子どもと支援者のための心理教育ワークブック』(共著、誠信書房、2016年)。日本性教育協会(JASE)運営委員。
- 吉田博美** 駒澤大学学生相談室・常勤カウンセラー、臨床心理士/公認心理師。武蔵野大学心理臨床センター研究員。性暴力・性虐待被害者の心理療法が専門。米国ペンシルバニア大学不安障害治療研究センター認定 Prolonged Exposure Therapy スーパーバイザー/セラピスト。
- 東 優子** 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科・教授。ハワイ大学大学院でソーシャルワークを学び、教育福祉学類では社会福祉士養成課程を担当。WAS(旧・世界性科学学会)役員/性の権利委員会・副委員長。日本性教育協会(JASE)運営委員。

